

# 特別講演

知多地区企画

10:30～11:15

第1会場 つつじホール

「島民の暮らしを支える

—篠島診療所にできること—」

保里 恵一

(JA 愛知厚生連 知多厚生病院 乳腺外科)

(JA 愛知厚生連 知多厚生病院附属篠島診療所長)

司会：迫 欣二 (JA 愛知厚生連 知多厚生病院)

## 島民の暮らしを支える ―篠島診療所にできること―

保里 恵一

JA 愛知厚生連 知多厚生病院 乳腺外科  
JA 愛知厚生連 知多厚生病院附属篠島診療所長

篠島は近隣にある日間賀島、佐久島とともに愛知三島の一つであり、知多半島先端の羽豆岬と渥美半島先端の伊良湖岬の間に浮かぶ人口約 1,500 人の島である。島は昭和 33 年 4 月に三河湾国定公園に指定され、主な産業は漁業と観光である。篠島診療所は、1970 年某開業医診療所として開設されたがその後一時休診となり、1989 年 11 月からは JA 愛知厚生連 知多厚生病院の医師による巡回診療が開始され、現在は病院の附属診療所として今日に至る。人口減少と高齢化が進む島において、診療所が担う一番の役割は、人生最後のその日までこの島での暮らしを望む人々の生活や健康を支える医療の提供であるが、他に将来の医療を担う若い医師の教育現場でもある。診療所には愛知県下各病院から年間 20 数名の初期研修 2 年目の若い医師達がやってきて、保健・医療・介護を体験し地域医療の最前線を学ぶ。診療所で行う医療には、通常の診療の他に在宅医療における往診、乳児から高齢者までの各種予防接種、南知多町の住民健診、船舶免許の取得・更新における診断書作成などがある。篠島保育園には比較的多くの園児が集い、年 2 回の定期健診も行っている。

島はしらす漁やふぐ漁では日本有数の漁獲高で活況を示す一方、若い人の島離れも少なくなく独居老人の増加が見られ、近年では島内での孤独死が散見されるようになってきた。島での看取りの手順は、以前より本院との間で確立されているが、最近では家族や親族以外の人による死亡発見があり、時に警察による検死が行われることもある。このため、行政や福祉などとの連携の下に新たな死亡確認の方法について検討を進めている。

また、篠島は古くから伊勢神宮との関わりが深い。島にある神明神社は宝亀 5 年（771 年）に伊勢神宮から下賜された建材で造られたのが起源とされ、以降 20 年ごとにお社の造営・遷宮が行われてきた。島の祭礼の一つであるおんべ鯛奉納祭りは、毎年 6 月、10 月、12 月の 3 回行われるが、これは伊勢神宮内宮に干鯛（おんべ鯛）を奉納する祭りである。

篠島は歴史的にもまた興味深い島であり、名古屋城築城時に加藤清正が石を切り出した石切り場が当時の姿そのままに残っている。そんな島の歴史を織り混ぜながら、現在行っている島の医療についてお話をさせていただきます。



### ご略歴

1981 年 3 月 名古屋市立大学医学部卒業、その後第 1 外科に入局

1981 年 6 月 刈谷豊田総合病院を初めに、員弁厚生病院、名古屋市立大学病院、掛川市立総合病院、臨港病院、多治見市民病院など

2010 年から 知多厚生病院外科に勤務、同時に篠島診療所長

現在 日本乳癌学会名誉専門医、日本外科学会専門医、日本消化器外科学  
指導医、日本専門医機構特任指導医、日本化学療法学会評議員、  
日本医師会認定産業医